

着任のご挨拶

シンガポール日本商工会議所 理事
YOKOGAWA ENGINEERING ASIA PTE LTD
Director, Executive Vice President
今村 英智



シンガポール日本商工会議所の皆様、横河エンジニアリングアジアの今村英智と申します。前任で3月まで理事を務めていた朝長の後任として本年4月にシンガポールに着任し、理事ならびに本年度第三工業部会の部長に就任しております。少しでも皆様のお役に立てるよう精一杯努めて参りますので、何卒宜しくお願いします。

横河電機のシンガポールでの事業活動は本年で50周年を迎えました。当時、日本で生産をしていたメーター計器などの工業製品を、コスト競争力のあるシンガポールにて生産を移管するという形で当社の歩みが始まり、現在では製造機能のみならず、営業、エンジニアリング、サービス、研究開発（含むイノベーション）機能まで拡大しております。また地域統括HQとして、ASEAN諸国ならびに台湾、オセアニア地域を管轄しております。このように申し上げると順調な成長のように聞こえてしまいますが、実感としてはハードウェアのコモディティ化、中国勢の台頭による競争環境の激化、デジタル化の進展などで今までのビジネスモデルの延長では太刀打ちできない時代の中でどのように生き残っていくかという危機意識の方が強いというのが着任しての改めての認識であります。一方で今までの諸先輩の活躍によって築かれている日本企業への期待、信頼についても多くの声をいただいております。これからの良い未来に向けて挑戦できる喜びと期待を持って日々業務に接しております。

私の経歴を簡潔に申し上げますと、2002年に当社入社した後に海外営業を10年ほど担当しました。営業担当時代はシンガポールに頻繁に出張する機会があり、振り返るとまだマリナーベイサンズも建設されておらず、1SGDが65-70円あたり、日本よりも価格競争力があるといわれていた環境で、東南アジア地域の主に石油ガス案件を担当させていただきました。その後中東地域、ロシアCIS地域のビジネス開発を経て、ロシア現地法人に海外赴任の辞令が出たのが2020年2月、ちょうどコロナが急速に蔓

延し始めたタイミングでした。よって当初日本からリモートで業務の後、ようやく現地に駐在が叶い、半年が経過して慣れてきたタイミングでまさかのウクライナ危機で緊急帰国、そのままロシアに戻ることはなく、引越し作業もリモートで指示をして荷物をモスクワから東京へ返送していただきました。（結局日本ではほぼ開封せずに、今度はシンガポールにやってきた荷物もあり・・・）

ロシア駐在はようやく慣れてこれからというタイミングで突然の緊急帰国であり、海外駐在が志半ば、不完全燃焼であったため、昨年日本で業務にあたる一方でもう一度駐在の機会があればと考えていたところに今回シンガポール赴任の辞令をいただいた次第です。

シンガポールの生活については日本食、日用品や雑貨類もほぼ日本と変わらぬ形で手に入れることができ、商品に日本語表示が結構溢れていることにも最初は驚きました。ロシアではキリル文字がようやく読めるくらいの語学力であったため、スーパーで説明が良く解らない商品を試しに買ってみたいといった冒険？があったのですが、期待が外れる商品を買う心配も全くなく過ごせる環境で、ちょっと快適すぎるかなと思うくらいです。

この経歴からご察しのとおり、今まで長くエネルギー案件を担当してきました。昨今はエナジートランジション、ネットゼロへに向けた大きな変革に取り組む一方、今後ますますの発展が予測されるASEAN地域のダイナミズムの中、シンガポールの先見性、産業戦略には日々学ぶことが多く、その中で今後皆様からも色々と経営、事業については是非議論、相互交流をさせていただき少しでも日系企業の発展ならびにプレゼンス向上にお役に立てればと考えております。

最後になりますが、会員企業の皆様、事務局の皆様、ならびにご家族の皆様の益々のご健勝を祈念してご挨拶とさせていただきます。